

D. 計画の基本的な考え方

1. 基本理念（将来像）

本計画は、長岡京市第3次総合計画における「福祉・保健・医療」の主要テーマである「だれもが安心して暮らせるまちづくり」を実現するためのビジョン、施策の方向性等を明らかにするものであり、「だれもが安心して暮らせるまちづくり」を本計画の基本理念として設定することにします。

また、この基本理念のもと、本計画ではこれまでの健康福祉に関する個別計画が対象とした領域にかぎらず、様々な生活課題を抱えている市民を対象とし、課題の有無にかかわらず住民どうしが気軽にふれあいながら、これらの課題を理解・共有し、課題を抱える市民一人ひとりが自らの力で解決を図ろうとする取り組みを支援していくまちづくりをめざします。

そこで、本計画では基本理念を具現化したものとして「ふれあい、わかりあい、支えあいのまち ながおかきょう」を、本市の健康福祉に関する将来像に設定します。

だれもが安心して暮らせるまちづくり

— ふれあい、わかりあい、支えあいのまち ながおかきょう —

2. 基本視点

本計画では、上記の基本理念（将来像）を具現化するための各施策において共通する考え方を「基本視点」として掲げ、以下の3項目を設けることにします。

（1）地域“愛”（このまちが好き）、人間“愛”（人が好き）、自己“愛”（自分も大切に にする）に根ざした「健康福祉文化」の創造

学校教育や社会教育での地域的課題に関する学習、福祉学習・教育、健康学習・教育のほか、ボランティア学習・体験、ボランティア活動など様々な機会を通じて、本市や生活している地域の課題、自分を含め住民が抱えている生活課題などに気づき、それを理解することで、まちやひとを愛する心、自分を大切にすることを育むとともに、これらの課題を自分自身のものとして捉え、地域社会で共有することによって、地域ごとに課題解決に向けた取り組みを展開できるような「健康福祉文化」を創造します。

（２）住民の主体的な参画と官民のパートナーシップに基づく、地域生活支援の新しいスタイルの構築

前項の取り組み等によって、地域の課題や地域住民の生活課題を解決する活動への住民の主体的な参画を促進するとともに、「自助」、「互助（民間によるインフォーマルな支援）」、「共助（民間によるフォーマルな支援）」及び「公助（行政による支援）」のつながりや連携のあり方、それぞれの支援主体である官と民との役割等を明らかにすることで、自助－互助－共助－公助による新しい生活支援システムを構築する必要があります。

（３）当事者による主体的な選択を支える環境づくり

社会福祉基礎構造改革により福祉サービスの提供が「措置」から「契約」に転換される中で、生活課題を抱えている人が、自らの生活設計や福祉サービスの利用等に関して自立と自己決定が可能となるよう主体性の形成を図る必要があります。また、サービス利用者が複数の事業者の中から選択できるよう多様で多元的なサービス提供主体を確保するとともに、サービス利用に伴う契約、実際の利用、苦情相談等において利用者とサービス提供者との対等性を確立する必要があります。